

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ふるさとの森 おはな		
○保護者評価実施期間	令和6年12月25日 ~ 令和7年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30世帯	(回答者数) 28世帯
○従業者評価実施期間	令和6年12月25日 ~ 令和7年1月6日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に知的障がい者入所・通所施設があり、その他にも就労B型・放課後等デイサービスなどがあり、様々な年代で継続した利用者支援が行える。	法人で開催される行事には幅広く案内を行い、法人内のそれぞれの事業所を知ってもらう機会を作り、それぞれの年代で必要なサービスを受けられる様に案内を行っている。 特に、放課後等デイサービスへの移行は、各行事の際に細かな説明を行う時間を設け、丁寧に案内を行っている。	地域の子供達とご家族を幅広く参加できるような行事の企画案内。
2	まず親子で療育に参加して頂くことで、お子様が集団生活の中で抱える特性や適応行動の実態を知り、ご家族と一緒に子供さんへの支援を考えて進めていく。	利用開始の際は必ず10回程度は親子でご参加いただき、ご家庭以外の集団の中でのお子様の様子を知って頂ける様な活動を工夫して設定し、就学に必要なスキルをどのように身に付けていくべきかをご家族と一緒に考え、ご家族の役割(ご家庭での支援の仕方)についてもお伝えできる様にしている。(家族支援)	支援者自身の研修やスキルアップに繋がる取り組み。
3	自然豊かな立地にあり季節を肌で感じながら、植物や生き物に直接触れることができる。	一年を通じて法人内の散歩や散策を取り入れ、身体を使った遊びを行うと同時に、自然に触れて感触過多の軽減や、自然を「見る」自然に「気付く」「触れる」などを意識して取り入れられる様にしている。(五感の刺激)	安全に遊べる園庭の確保と充実。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自然に囲まれた立地にある為、自然災害の影響を受けやすい。	立地の条件により台風時は電気・水・通信などのライフラインがストップしやすい。	予測できる自然災害に関しては、事前の準備と対策、利用者様にはできるだけ早目の連絡ができる様な体制作りを確立しておく。
2	雨天時の送迎の安全確保。	事業所昇降口の狭さ、屋根の不足、送迎人員の不足。	昇降口の屋根の拡充。身障者用の昇降口の確保。
3			